



# 令和3年度 1月人権一口講座



「幸多き歳となりますよう」

十二月のある日、朝の通勤の時刻でした。車窓から遠くの方に小学校の通用門が見えてきました。歩道を手をつないで並んで歩く母子の姿が見えます。「一緒に登校かー。そんな事は自分には無かったな。」と小さい頃を思い返していると、車が渋滞に巻き込まれ、小学校の通用門の前あたりで停車したのでした。

黄色い帽子の女兒が母親に抱きつき離れようとせずに大泣きしています。「嫌だ、嫌だ。」でも言っているような動きの口元です。母親は困った顔をして、一生懸命に女兒の顔をのぞきこみながらなだめています。

すると、上級生の女兒が「私が連れて行ってあげましょうか？」と声をかけ、すっとかがんで女兒に声をかけ、顔をのぞきこみました。その途端、ぎゅっと手を握って通用門の先の校舎の方へと行ってしまった。それは、あつと言つ間の出来事でした。

困っていた母親は、離れない我が子を道端で叱るわけもいかず、言葉を選んでなだめていたのに……。反して上級生の女兒は「さ、みんなが居る教室に行くよ。おいでー!」とでも、気を引く言葉かけをしたのでしうか。

動き出した車の中で考えてみた。まずは、「私が連れて行ってあげましょうか？」と言つた上級生の存在。そこに困っている人がいた。自分が出来ることは何か？考えて行動が出来たことは素晴らしいと思います。家庭での躾でしょうか、学校での学びでしょうか。それとも地域社会での経験でしょうか。私が見た一瞬の光景は「つながり」を感じさせる何かしら「ほつ」とした時間にも感じました。

そうそう、黄色い帽子の女兒はただの一度も振り返りませんでした。想像の域ですが、教室で待つクラスメートに会うことを楽しみにしていたのかもしれない。又は、上級生と手をつないで歩く楽しさが心地良かったのかも。いつもと違う経験の成せる技かも知れません。

令和三年の歳が終わり、新しく令和四年の歳が始まります。

思い起してみますと、旧年は皆様にとつて、良い年であったり、いやあそつでもなかったりと、「高い壁や低い壁」「山あり谷あり」と、きつと様々だったとてしよう。

けれど、皆様！新しい年は「心機一転」明るく楽しい出来事などをいろいろと想像しながら過ごしたいものです。自ら壁を作りだし、寂しく苦しい思いを経験するこつがそつないようにと願っています。



**短いメッセージ** みんなが私をよぶ声で 私はとても力が出るよ  
笑顔のお返し おはようみんな

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 隈の庄小学校4年 影山咲愛さんの作品より